

これまでの検討

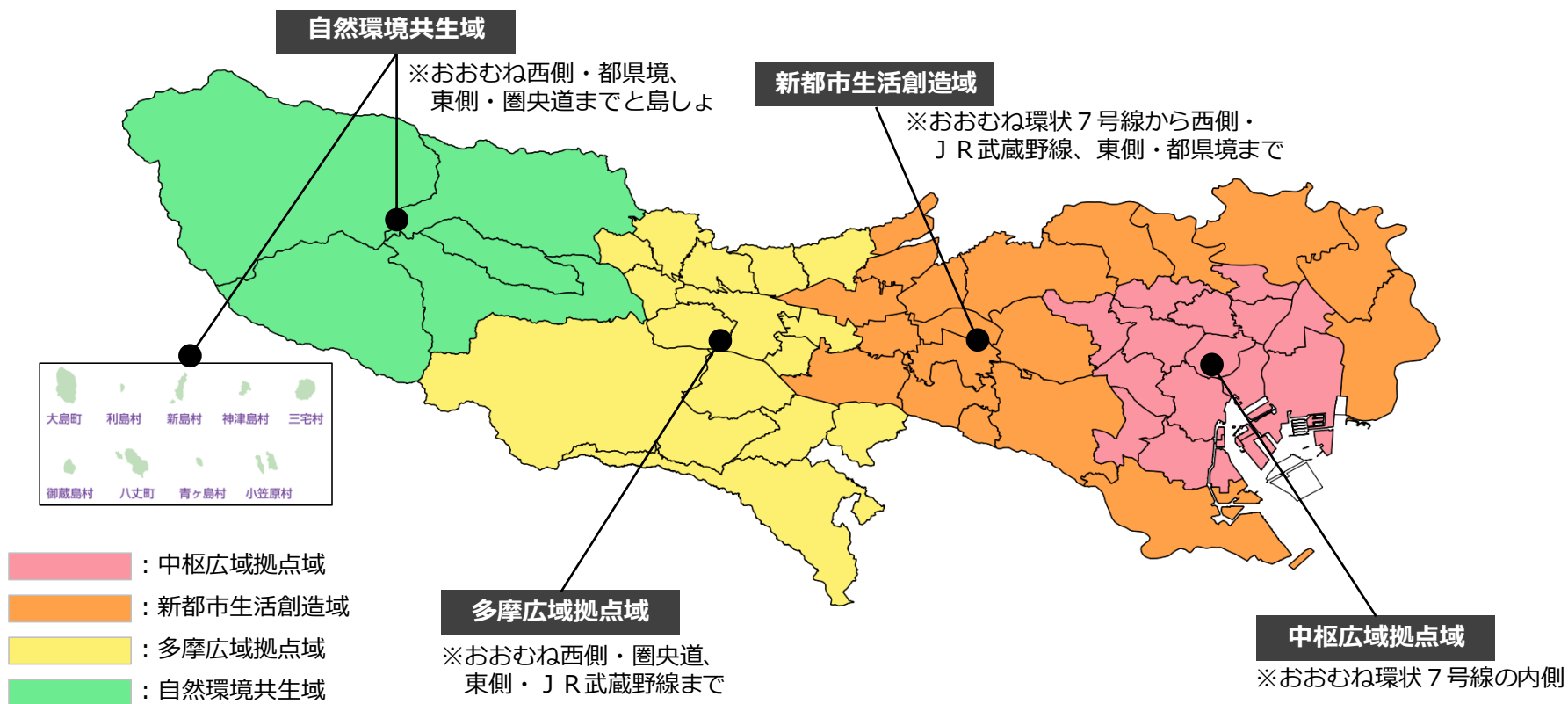
令和2年12月16日

東京都 都市整備局

■ 地域区分

- 地域特性等を踏まえた4つの地域に区分
→ 『中枢広域拠点域』 『新都市生活創造域』 『多摩広域拠点域』 『自然環境共生域』
- 地域区分ごとに、地域特性、課題、活用方針を整理

【4つの地域区分】



(1) 人口

- 4地域別の人口推移は、中枢広域拠点域では各年代で増加し、新都市生活創造域、多摩広域拠点域、自然環境共生域では高齢者が増加すると推計されている。
- 高齢者人口の割合は、中枢広域拠点域から郊外部へ向かうほど高くなる推計となっている。

人口推移(推計)

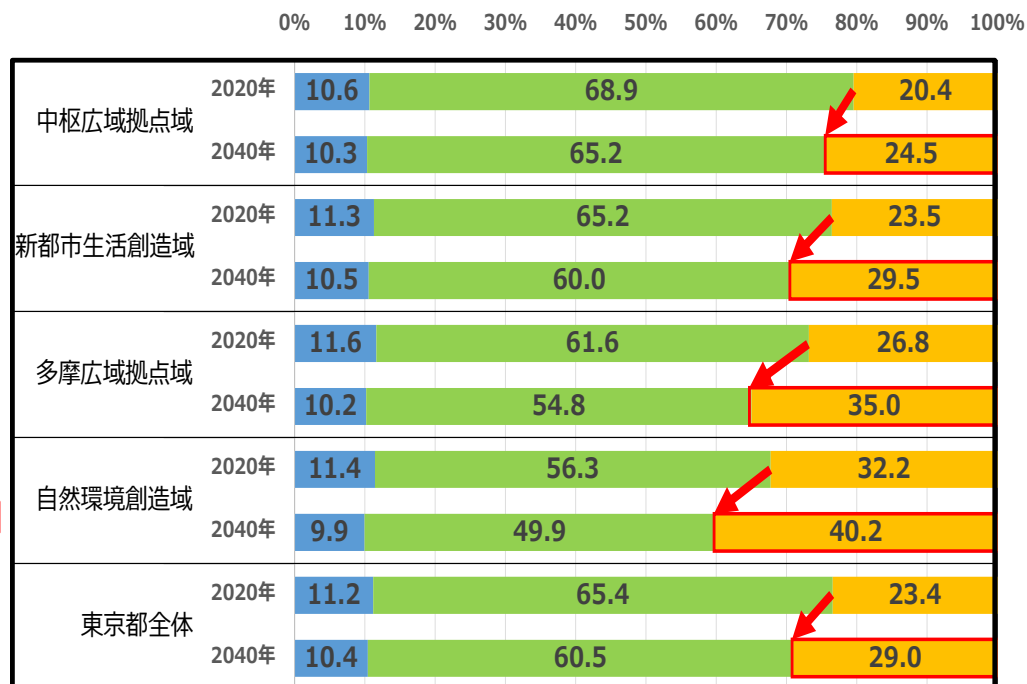
中枢広域拠点域 人口推移(万人)	2020年	→	2040年
年少人口(15歳未満)	40.6	+4.1%	42.3
生産年齢人口(15歳以上65歳未満)	263.0	+1.5%	267.0
高齢者人口(65歳以上)	78.0	+28.6%	100.3
合計	381.6	+7.4%	409.6
高齢者率	20.4%	+4.1%pt	24.5%

新都市生活創造域 人口推移(万人)	2020年	→	2040年
年少人口(15歳未満)	82.4	▲7.0%	76.6
生産年齢人口(15歳以上65歳未満)	475.4	▲8.4%	435.6
高齢者人口(65歳以上)	171.8	+24.7%	214.3
合計	729.5	▲0.4%	726.4
高齢者率	23.5%	+5.9%pt	29.5%

多摩広域拠点域 人口推移(万人)	2020年	→	2040年
年少人口(15歳未満)	27.4	▲19.2%	22.2
生産年齢人口(15歳以上65歳未満)	145.3	▲17.8%	119.4
高齢者人口(65歳以上)	63.3	+20.3%	76.1
合計	236.0	▲7.8%	217.7
高齢者率	26.8%	+8.2%pt	35.0%

自然環境創造域 人口推移(万人)	2020年	→	2040年
年少人口(15歳未満)	3.0	▲26.7%	2.2
生産年齢人口(15歳以上65歳未満)	14.8	▲25.4%	11.0
高齢者人口(65歳以上)	8.4	+5.0%	8.9
合計	26.2	▲15.8%	22.1
高齢者率	32.2%	+8.0%pt	40.2%

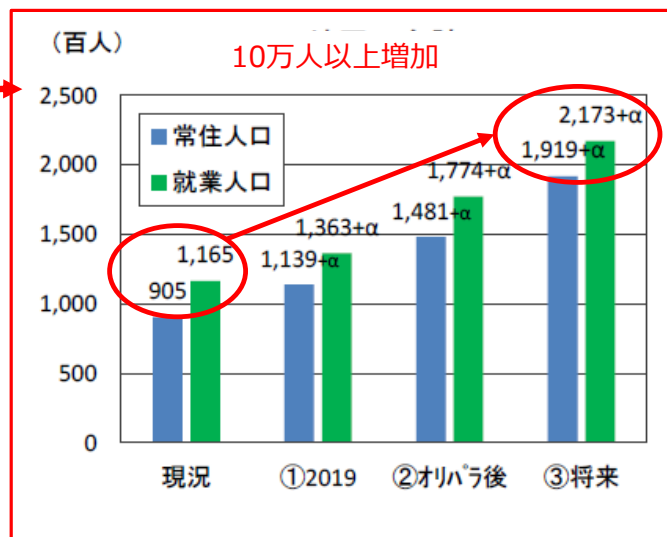
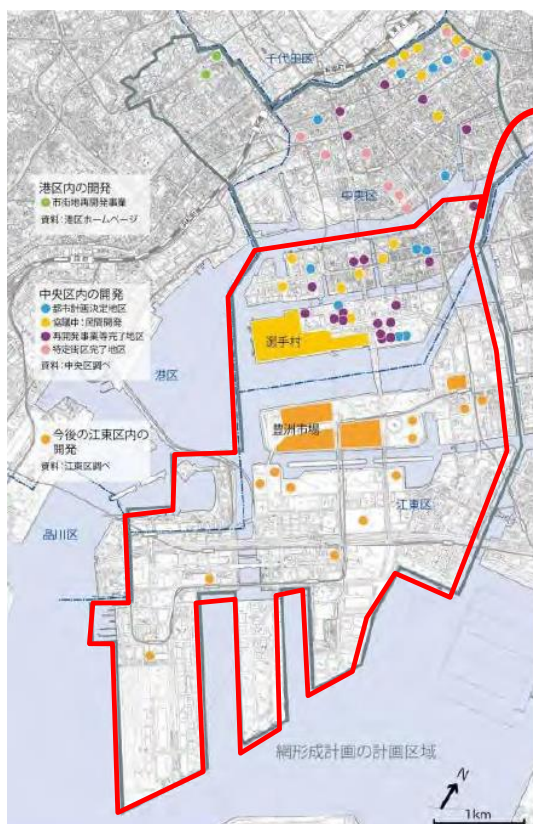
年齢階層別人口構成比(推計比較)



■ 年少人口 (15歳未満) ■ 生産年齢人口 (15歳以上65歳未満) ■ 高齢者人口 (65歳以上)

(2) 人口 臨海部の新たな需要

- ・ 中枢広域拠点域の臨海部（オリパラ会場跡地等）は、東京2020大会後に大規模な住宅等の開発が予定され、将来、人口は10万人以上の増加が見込まれる。

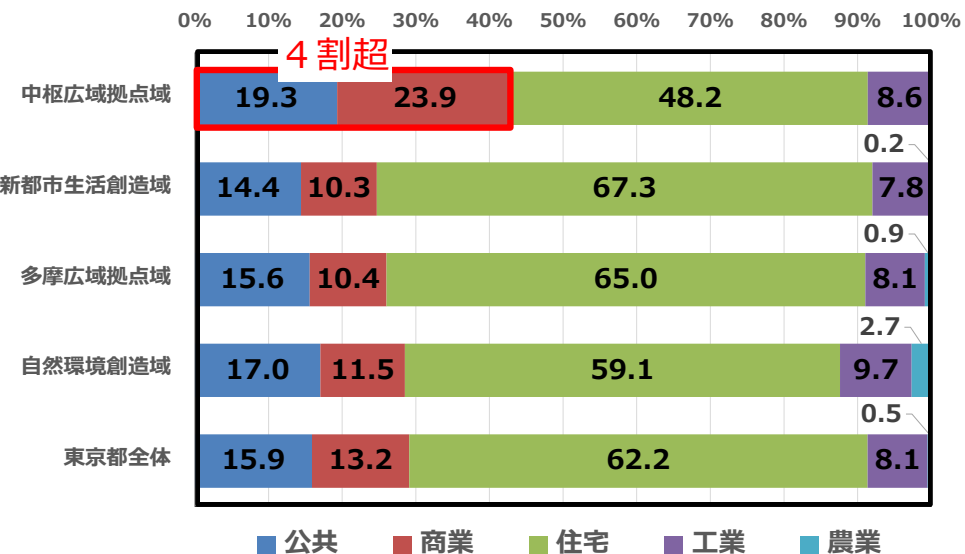


出典) 東京都、中央区、港区、江東区『東京都臨海部地域公共交通網形成計画』
(平成28年6月)

(3) 土地利用

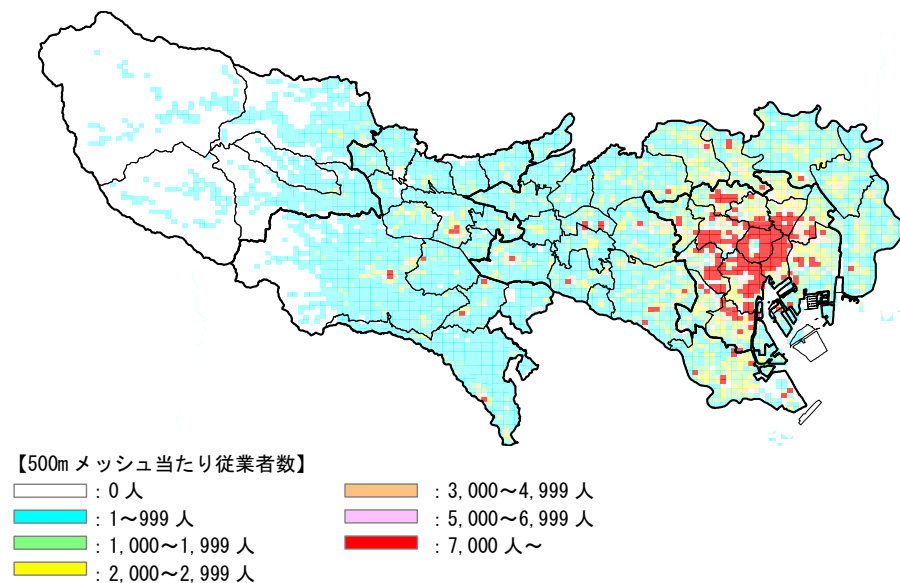
- ・ 中枢広域拠点域における宅地のうち、4割超が「公共・商業」用地として用いられ、他の3地域と比較して高い割合を占めている。
- ・ 従業人口は中枢広域拠点域に集中している。

宅地の利用状況



出典: 東京都『平成28年度土地利用調査結果の概要』より作成

従業人口分布(500mメッシュ単位)

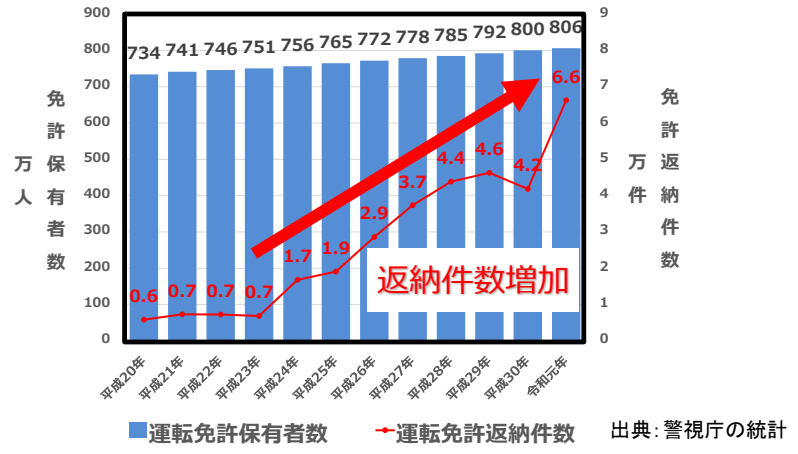


出典: 経済センサス(平成26年)

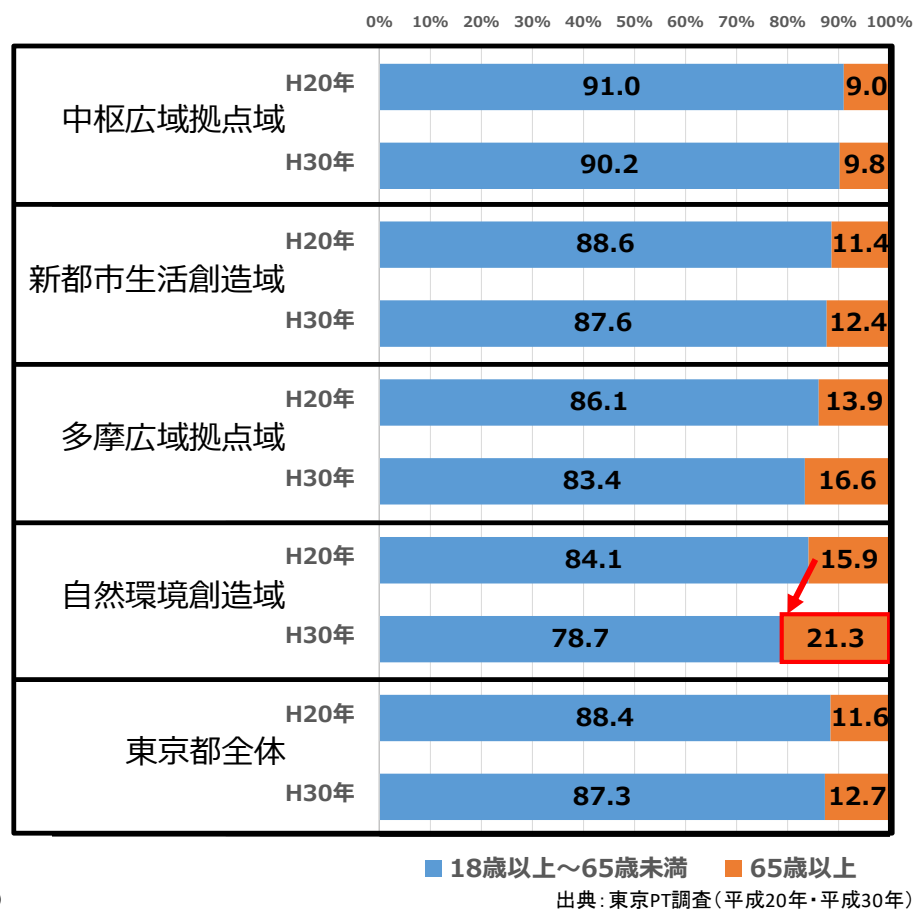
(4) 免許保有状況

- 人口増加に伴い、運転免許保有者数は増加傾向である。一方で、運転免許を返納する件数は増加しており、将来の人口減少と併せて免許保有者は減少すると推測される。
- 自然環境創造域においては、運転免許保有率が他の地域より高いが、返納率が最も低い。年齢階層別運転免許保有者の構成比は、高齢者の割合が最も高く占めているため、自動車の必要性が高い地域と推測される。

運転免許保有者・返納件数の推移



年齢階層別運転免許保有者の構成比 推移



運転免許保有の状況

